１月 土居隣保館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2 振替休日	3	4	5	6	7 木工教室
8	9 成人の日	10 空手教室	11	12 ｽﾛｰｴｱﾛﾋﾞｯｸ 10:00～	13	14 座談会 18:30～
15	16	17 空手教室	18	19 ｽﾛｰｴｱﾛﾋﾞｯｸ 10:00～	20	21
22	23 悠遊クラブ 10:00～	24 空手教室	25 職業相談 10:00～	26 ｽﾛｰｴｱﾛﾋﾞｯｸ 10:00～	27	28
29	30	31 ６年生交流会打合せ会 16:00～				

隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

悩んでいることはありませんか？

隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場でのハラスメント」、「職場や学校に行けない」など悩みがありましたら、何でも相談してください。

また、毎月25日（原則）は、ハローワークの巡回相談（職業相談）を行っています。巡回相談は、電話による予約制となっています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更・中止となることがあります。

土居隣保館便り

令和5年 1月号

発行:土居隣保館　〒799-0703 土居町藤原 5-400-3 TEL/FAX 28－6356

謹賀新年

明けましておめでとうございます。

いつも、隣保館活動にご支援いただき、ありがとうございます。

昨年も、新型コロナウイルス感染症に翻弄された１年になりました。しかし、多くの方のご協力の下、方法を工夫したり規模を縮小したりすることによって、子どもたちをはじめ、多くの人たちの研修の場を確保することができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今年もウイズコロナの１年になるかと思います。しかし、現実をしっかり受け止め、差別のない社会の実現をめざして、様々な活動を計画していきたいと思います。職員一同、人が集う隣保館でありたいといつも思っています。お気づきの事がありましたら、お知らせいただければ幸いです。合わせて、ますますのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

皆様にとって今年が幸多い１年になりますよう、心からお祈りいたします。

２０２３年1月

土居隣保館館長　藤田千恵子

第１回人権・同和教育講演会（就学前合同部会研修会）

11月16日（水）、第１回人権・同和教育講演会（就学前合同部会研修会）を土居隣保館で開催しました。この講演会は、「差別の現実に学ぶ」ことをとおして、就学前関係者一人一人が、同和問題に対する正しい認識を深めるために行っています。そして、差別解消に向けて、人権・同和教育を力強く推進していくための豊かな感性と確かな実践力を身に付けることを目的としています。当日は、新居浜市役所人権教育課の鴻上基志さんから「誰のために差別をなくすのか」と題しての講話を聞いた後、参加者と鴻上さんで意見交換をして、自分自身の生き方について見つめ直しました。

【各園からの感想】

★尊敬していた「父」が差別者と分かったときの気持ちを考えると、やるせなかったり、怒りが沸いたりすると思った。私が結婚したとき、親戚の人に「身元はしっかりしとんやな。」といった人がいた。周りの人が注意してくれたが嫌な気持ちになった。「立場の自覚」で悩んでいる保護者の姿を通して、子の思い、親の思いを感じた。私が考えている以上に悩んだり、心配したりしているということを知り、子どもに関わる一人の大人として、人権・同和問題学習をすることに自己満足的にならないようにしたいと思った。その人その人の背景や環境に注視し、慎重に丁寧に関われるようになりたい。

★いつでも相談できる、部落差別の話ができるという安心感があることが大事であることにとても共感し、取り組み続けることに意義があることに納得することができた。いじめのことと部落差別のことを置き換えて考えた時に、「ほっとけることではない」と心で感じることができた。

差別から解放されるために人権・同和教育を学び、啓発をしていくという差別解消へのはっきりとした目的が見えてきた。学生時代に鴻上さんのような先生に出会いたかった。鴻上さんのように自分が子どもたちや保護者から出会えてよかったと思ってもらえるような実践をしていきたい。

★講演を聞いて、当たり前の幸せをも奪ってしまうのが部落差別だと改めて感じた。私は就職し人権・同和教育との出会い直しをした。鴻上さんが差別の現実に出会ったとき初めはしんどかったが、自分が向き合おうとしていなかった、と話を聞いて反省した。時間がかかってはいけないが、今までの学習から何故学んでいるのかが分かってきた。自分や家族が幸せに生きていくために差別をなくす。まずは自分の心や家族、目の前の子どもたちと向き合うことを大切にしている。また、クラスで何でも言い合える仲間づくりも大切にしている。学習を積み重ね、自分自身の心も育てていきたい。

★鴻上さんの実体験を基にした話を聞いて、改めて差別の現実の厳しさを知り胸が痛くなりました。差別は誰のためになくすのか、人権・同和教育を正しく学ぶことによって、自分や家族が幸せに生きていく為になくすんだと言われていました。いろいろな差別は見ようとしないと見えなくなっています。知ろうとすることを常に心がけ、今関わっている子どもたちが差別はおかしい、間違っていると感じられるような関わりを大切にし、差別をなくすための仲間づくりをしていきたいです。

★子どもたちが、「人権・同和教育を受けることができてありがたい」と言っていた。私は学生時代、他人事で、勉強をさせられていたように感じていた。大人になり研修を重ねていく中で、差別の現実や正しい知識を知っていく度にマイナスに捉えず、素直に胸に入ってきたように感じてきた。きっと学生時代に土台を作ってくれたおかげで、今思えばありがたい。

熱心に関わってくれた人はいまだに印象に残っており、いつか自分の関わりが学生時代の自分の時のように繋がることを信じ、日々の積み重ねを大切にしたい。

★人権・同和教育を受け育ってきた彼氏が自分の親を説得し結婚を認めてくれ、今は幸せに暮らしているという内容の動画。「ハッピーエンドに見えるがそうではない」と聞き、良かったで終わらせてはいけないと感じた。反対された彼女は心の中では忘れたくても忘れられないと思うし、まさに刃が刺さったままになっているのではないかと感じた。差別はもうないと聞くこともある。根強く残っているのが現状だと思う。保護者啓発をしていくうえで「この園の先生になら」と相談してもらえる自分なのかどうか、自分の思いを自分の言葉で発信していくことを積み重ねていきたい。

私たちの周りには、いまだに部落差別が残されている現実があります。よく、「差別はいまだに残されている」と聞いたり、自分も同じように言うことがありますが、残されているのではなく、自分がその差別を残しているのだということを忘れてはいけないと思います。講演会を通して、改めて自分の気持ちに向き合う機会になりました。今後も、強い信念を持って前に進んでいきます。

主事　　川上祐志